

## 東松島市立浜市小学校

2014年 11月 21日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)

北林 雅洋(香川大学教育学部)

### 【文献】

(1)「東日本大震災教職員が語る 子ども・いのち・未来」宮城県教職員組合(2012)明石書店

### 【場所】

海岸から約1km、鳴瀬川から約600mの位置にある。

住所:宮城県東松島市浜市新田81

※現在は小野小学校と統合して小野小学校の校舎を利用して桜華小学校として再開。



赤い範囲:東松島市

### 【東日本大震災による被害】

津波により校舎が床上2.7m浸水、体育館が床上2.1m浸水した。

### 【震災当日の様子】

地震発生後、停電でテレビで情報が得られないため、職員が自分の車のワンセグテレビで大津波警報を確認し、校舎上階への避難を指示した。防災無線でも大津波警報が発令されていた。

その後、地域住民と児童の保護者が学校に集まってきた。避難所の設置を開始し、保護者には、大津波警報が出ているので学校にとどまったほうがよいことを話し、それでも連れて行くという保護者には安全な場所に避難するように伝えた。その状況の中で、「津波だ、本当に津波が来ているぞ!」という叫び声が聞こえ、職員が窓から外を見て津波を確認し、屋上を開放して地域住民と共に児童・職員は避難した。

翌日、浜市小学校は次に津波が来た場合に危険だということで、別の避難所へ全員移動した。後日、児童全員の無事が確認された。(1)

### 【調査して言えること】

学校の標高は1.3mで、海からは約1km、一級河川である鳴瀬川から約600mの場所にあり、地震の際、津波を警戒する必要がある場所である。

学校の周囲には高い場所が無く、一番近い高台まで約1kmほど離れており、学校外へ避難するためには事前に津波を想定した避難経路の確保と避難訓練が必要な学校である。



東から見た学校(2014/11/1撮影)



学校の北側の様子(2014/11/1撮影)

※特に高い場所が無い。また、川の方角を向いているが川を見ることはできない。